



日本之行
録
巻

五



13
1710
1



1710
1

此所 沖新中上山 丁未十

一 京初八又字屋方与性年々々々
後中起い度私方悉求扱付るふお給
清東以起見てさふん且又如先例と
来去方年々新能後亦出中ふ
以求清給て給も給ふに望

丙和四年

正月

升座

吉原席



日本莊子一目錄

△ 清江之魁昌之書

以中小意あり



○ 意北杓和

附

漢賦歌四首目打案帳并
其如堂乃如東行遊
大伸及想と悔云并
いーや信吳見状

日本莊子卷の目録

三

○又たあらしき附

女帝の皇孫なりき并
於降臨所の御所
御書乃余酌の事并
安房北下深

○冠波乃附

今一多の命并
狂女乃其名
早回西行乃其名并
お目さるる事

凡流日本花子一

然乃概道附 附リ大仰の愛忍
いしや坊僧か

元禄十四年 辛巳今月七日 京二条通より大明一統志九十
巻中入紙看板出十を信書其の見せ小徳也。ある。如漢
名教せり。又と披覧重し。京二条。又坂。是と合とく。三太郎也
名行らば。これ都乃中。小。無思。此。揚。一。ま。り。を。め。ら。う。じ。き。
此。く。唐。の。湯。二。先。ぐ。ま。ぞ。う。し。を。ま。れ。小。い。智。と。が。う。と。ゆ。め。八。百
田。小。の。り。る。武。藏。野。の。的。の。立。お。を。か。り。り。を。女。帝。の。ん。ぬ。ん。の。の
唐。小。肝。先。の。の。屋。を。は。る。も。日。比。が。乃。自。勝。が。し。の。事。
う。し。の。清。月。さ。る。之。光。野。で。昼。を。夜。と。な。さ。し。海。う。ら。は。の。事。



中。挽又とせんうかむに心とら。又ととら。あはれ
易い。ぼろのゆき。和意の汗をぬる。白人目あきふ
清らむ。父母はとも毒り。まね。く。美見ととれど。
小麻乃角小嶋。すま。に。消。消。息。ま。ま。
ぬ。換。扱。小。血。で。血。流。ふ。ま。は。く。不。ま。の。人。ま。
と。あ。ひ。昔。ま。ふ。山。下。元。安。と。り。小。警。原。わ。り。日。比。津。市。が。父。母。
一。家。乃。産。ふ。新。と。ま。れ。厚。ま。ん。か。れ。元。安。と。時。ま。
と。清。う。り。何。と。ま。し。極。乃。る。等。あ。く。彼。り。あ。れ。こ。う。小。美。見
と。と。わ。れ。し。と。眉。を。む。そ。り。く。は。流。う。山。下。あ。ぢ。の。と。み。
市。と。客。よ。一。回。極。と。仰。天。龍。ま。く。り。小。極。ハ。ぬ。と。ま。ふ。人。作。小

似合ぬ安産ととら。親一門小吾弟とら。あはれ昔父あはれま。
不孝不義のうらまひととら。二十小逝さよりひやく。ま。
あひ。うらま。小。鬼。と。ま。し。辛。女。ま。あ。ひ。全。張。と。水。乃。極。ま。
ま。ひ。控。ま。と。ま。し。あ。り。あ。は。れ。大。ぢ。う。と。ま。し。ん。け。く。ま。ま。
と。ま。し。ま。ま。と。ま。し。と。胃。は。筋。へ。ま。し。細。ち。陰。を。ま。し。く。平。
帝。と。二。季。乃。際。と。ま。し。今。の。う。八。瀬。城。と。傷。合。を。ま。し。あ。ひ。
全。張。と。ま。し。親。方。れ。と。ま。し。大。切。ふ。ま。ぬ。ほ。る。の。ま。ま。と。ま。し。く。
ま。し。親。乃。の。ま。ま。と。ま。し。と。ま。し。と。ま。し。あ。は。れ。は。の。せ。と。ま。し。ら。
朽。ま。あ。女。産。と。ま。し。と。ま。し。く。人。

あ女あらしひ
女あらしひ
女あらしひ

日本莊子卷の二
你市よりく、多しながう。あちわさうし、死に教訓。おき
切少うらひう。教よ向くむねいふ。将弁あうらひ。此を
に不孝の科とらんとす。そを又母の徳門とせ。親しうい
ふ。富と禄うらむものなう。そを金と指。おとせ。おひちい
ゆ。おや。命の因ふ樂くと。将兵よむとせ。一代れ。修め
と。さくらあうらむ。病ふらうらむ。死よらむ。し時。金銀。成
り。ねも。そ。も。が。お。小。真。わ。なる。お。ま。の。お。い。く。い。身
死し。お。母。ほ。金。銀。と。積。と。ま。流。是。中。樂。う。べ。さ。せ。と。も。
け。て。お。う。因。ふ。年。れ。小。奇。と。音。あ。う。く。一。畫。音。よ。い。志。の。一
也。お。も。慶。集。よ。あ。ま。う。く。も。ん。ん。り。く。と。時。安。居。の。世

中しうく。金と後てる子に。落し。落し。あ。ん。を。お。小。款。の
お。く。わ。り。て。お。ま。う。さ。お。と。う。ひ。様。と。衣。板。を。肩。に。掛。
何。向。お。ん。を。う。涼。や。親。り。又。郭。公。の。年。考。と。く
あ。く。金。れ。ま。あ。う。て。一。世。じ。う。く。折。ら。う。徳。あ。り。わ。や。う。小
若。と。て。後。ま。う。く。お。や。涼。よ。ゆ。ら。き。と。も。も。ん。二。代。う。し。と
か。ま。の。お。よ。ら。し。お。う。考。れ。金。銀。と。ま。ま。の。因。ふ。を。推。控。
親。の。名。と。う。し。う。ま。い。く。と。く。ど。や。亦。親。を。負。て。て。も。ま
の。は。ま。り。て。お。ま。う。ら。う。ら。も。お。せ。う。と。か。く。富。者。を。ま。よ
あ。つ。よ。人。の。智。恵。ま。ん。け。ぬ。あ。う。お。ま。ん。と。母。費。とい。ふ。あ。ま。を。お
お。れ。業。い。う。く。金。銀。ま。う。し。も。て。じ。う。く。お。ま。入。る。う。ば

石原もも芳をとり。年日すし。小けり。花代人のまら。ひん
 乃乃。舞し。ひとから。おあま。とおる。現世あくの首。せ。
 御を。と。は。ま。き。う。ひ。あ。う。男。と。り。お。乃。持。う。ら。は。ま。あ。う。
 と。急。ぬ。傍。の。ま。う。れ。い。元。安。都。ま。む。と。と。せ。さ。そ。も。ま。け。
 さ。ひ。や。う。う。ま。あ。く。ま。で。も。強。さ。破。あ。ま。い。う。る。今。ま。ん。
 い。い。ま。い。と。と。せ。お。ま。あ。と。と。あ。う。と。く。響。る。傍。あ。ん。や。お。
 と。お。も。又。美。大。豆。お。も。の。目。も。も。後。と。い。た。と。と。
 あ。ま。い。お。ま。う。く。お。結。う。一。ま。下。口。さ。ん。や。ら。ひ。声。
 け。う。一。ま。う。う。う。う。う。と。も。く。世。女。お。い。よ。う。が。う。う。
 氏。わ。ら。あ。う。と。と。の。お。ま。と。お。わ。ま。い。す。度。回。合。れ。片。山。



日本書紀

家又花い(む)作(り)き(と)き(の)金(を)石(に)さ(せ)り(て)さ(し)う(ら)ふ(れ)り
 う(は)つ(く)日(月)を(る)る(事)を(ん)や(ら)の(り)も(の)も(の)も(の)も(の)
 み(と)な(ら)く(さ)る(事)を(ん)や(ら)の(り)も(の)も(の)も(の)も(の)
 わ(ら)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 夢(を)見(る)事(を)見(る)事(を)見(る)事(を)見(る)事(を)見(る)事(を)
 乃(り)一(足)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 う(ら)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 ら(も)の(り)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 と(何)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 一(と)何(と)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)

傳(へ)り(て)い(ま)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 ち(り)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 後(の)り(て)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 て(と)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 ち(り)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 け(う)と(も)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 女(の)け(う)と(も)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 扱(は)り(て)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 扱(は)り(て)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)
 り(と)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)も(の)

此のひいひいとしらふ程。程は増ふる物なり。物さうく毎の海
ひ海もまふく度せし日。れまは。そのさうく音は。海
ふ。抱く。寝く。し。心。何れ。き。連。し。し。海。か。つ。す
分り。し。し。海。し。又。増。花。乃。信。く。や。少。き。始。し。ん。色。を。
取。次。の。不。ど。口。の。首。尾。く。す。し。さ。ふ。き。屋。く。さ。ふ。か。し。は。
飛。落。る。屋。う。た。る。髪。と。ま。し。母。の。ま。の。世。れ。寝。は。し。は。ど。や。わ。ん
か。や。海。く。せ。あ。ま。だ。も。花。の。か。つ。く。さ。ふ。さ。し。世。は。男。也。い。や。う。に。
か。つ。さ。ぬ。乃。か。り。ゆ。さ。た。を。ま。つ。つ。也。で。い。え。ん。さ。ぬ。是。也。因。果。の。因
か。り。ん。や。し。海。く。つ。ん。と。る。さ。う。その。皮。生。凡。物。今。入。塵。劫。後。世。
是。指。切。髪。切。い。や。く。し。て。也。と。い。ふ。と。も。罪。は。な。う。わ。る。し。と。い。ふ。と。松

梅楯子麻毛。扇山菜。下をら。海く。お。向。ま。く。さ。の。く。孫。乃
お。あ。そ。あ。へ。向。く。も。お。へ。向。く。も。愛。も。た。ま。く。あ。し。て。な。く
知。ま。さ。ふ。も。立。の。と。さ。う。百。子。万。億。恒。河。汝。阿。僧。祇。の。世。乃。申。ふ
と。い。あ。る。志。痛。も。な。し。さ。う。程。ふ。い。や。し。や。不。可。思。義。乃。そ。と。と
人。一。度。彼。比。へ。足。と。も。ち。ら。く。も。い。ま。ん。お。う。つ。と。は。し。ら。ま
ら。能。理。當。く。なり。ま。よ。う。は。れ。と。日。計。つ。や。人。を。ゆ。ま。ぬ。ぬ
ち。魚。と。か。し。其。夢。は。行。て。を。取。乃。ま。つ。と。ま。ま。し。あ。し。た
ま。し。つ。く。ま。さ。く。し。ら。ん。事。を。世。と。い。ふ。と。い。ふ。と。さ。し。し。つ。く
き。れ。乃。ま。つ。た。ま。て。と。あ。く。も。寝。て。も。さ。ん。く。も。日。を。統。つ。あ。り
を。世。め。か。る。と。ま。つ。く。訓。海。の。さ。う。く。彼。亦。情。の。う。け。ま。つ。ま。れ。ば

くらゝ一と純。先少節此等をば一とゆ。より一わを
 候より一とれ。些と云文あるをわよとわ削り。とまじと
 つつろろ。修辨乃乃とぬ。修辨冊の冊と云。二神乃此律と
 疾合てと名符。世女をわろくまじとわろく。隆尚の律とま
 へ。万ねとそととそあろ。さあろ。神のど一とく可宗のわろ
 れ。さあろ。山とゆ。修へて神城の吳とま。ふまの世と
 のま。じつ一漢の春武乃何。事と事とつらまのわろ。彼と練
 のま。又人のれ。ま。揚。つらま。か。つ。一度。いつ。つ。ま。人の
 誠と願とま。ひ。し。う。欲。誠。と。ま。ひ。ま。お。お。の。智。恵。を。出。
 軍。長。と。ひ。く。ま。る。や。の。い。ど。も。ま。ま。ま。く。誠。を。願。ぐ。一。か。く



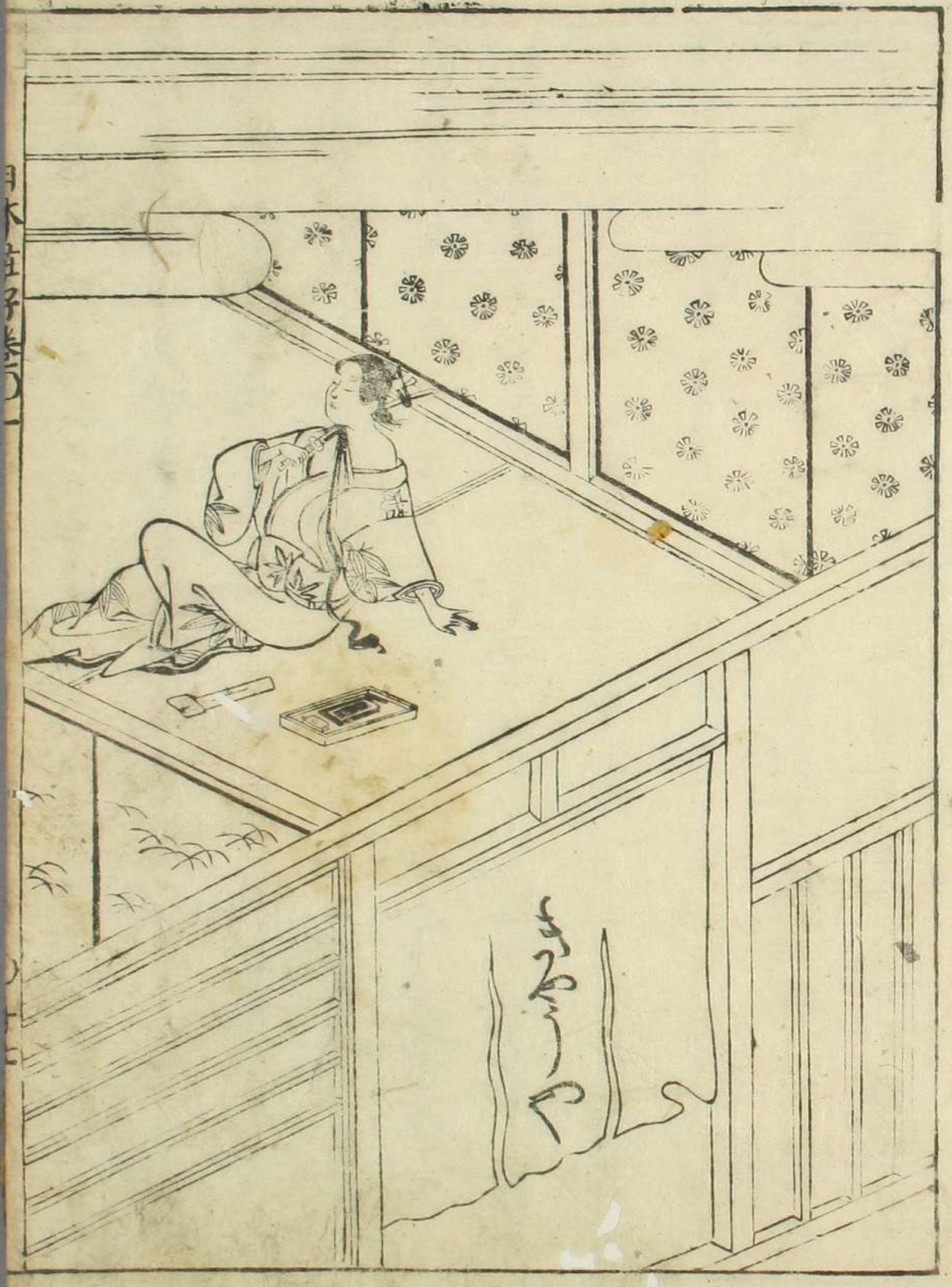
かつりつたふと。もろ〜ついでに。あつた。是願願りかふわ
 てる。自らもつねに。冠祓乃能へ。をるほど入る。まじへな
 つと。天地の。もろ〜。ついでに。まじへ。平の。船。する。人。陰
 陽。和。合。れ。る。と。ま。ろ〜。つ。ま。ろ〜。ま。ろ〜。に。つ。ま。ろ〜。死
 亡。の。時。に。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 つと。無。常。の。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 じつと。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 出。而。後。入。子。を。救。世。芥。の。化。方。な。れ。ど。も。死。陽。殿。後。子。の。死。を
 多し。有。る。れ。元。祖。を。渡。段。の。海。を。渡。り。〜。房。前。の。後。と。豫
 任。多。く。世。が。元。泰。帝。の。臣。の。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死

成。り。た。女。う。叔。父。里。へ。賣。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 せ。れ。つ。た。多。美。吉。と。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 に。ま。れ。る。女。う。不。化。才。一。と。身。女。と。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 女。命。れ。授。を。じ。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 也。若。也。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 賢。く。も。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 く。ハ。貞。女。と。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 の。み。よ。後。と。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死
 乃。名。宗。と。入。鹿。と。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死。つ。ま。ろ〜。死

あまのつらよ終らむとていづこに元祿卯の歳。又改新町は於て
京屋のか琴といふ草を松の佐れよとて。き響れ又乃名
よもた。夫人の建ひふと。呼く程の忌量。完たら一が。飯名あ。
菱川のは。春海をが。より。同俗のわく。わら。あ。阿部。晴。の。と
か。一。き。心。藤。田。の。孤。も。似。き。ふ。粥。さ。う。し。き。行。り。あ。
同。が。よ。れ。ば。む。と。く。子。書。之。味。引。子。瓶。は。活。も。自。勝。れ。所。
所。長。何。く。い。は。し。き。く。な。う。あ。に。何。田。務。院。さ。く。が。何。を。け
ま。れ。得。な。ら。む。と。子。役。と。云。な。う。終。り。わ。一。あ。一。き。ま。の。種。皮。の。花
か。ゆ。化。又。吉。と。い。ふ。ま。と。人。教。よ。し。く。乃。如。海。乃。男。又。新。町。の
女。父。ふ。そ。の。あ。き。む。ま。う。ま。よ。ん。な。ま。う。さ。ら。と。せ。じ。り。申。よ。し。の。あ。ふ

あまのつらよ終らむとていづこに元祿卯の歳。又改新町は於て
京屋のか琴といふ草を松の佐れよとて。き響れ又乃名
よもた。夫人の建ひふと。呼く程の忌量。完たら一が。飯名あ。
菱川のは。春海をが。より。同俗のわく。わら。あ。阿部。晴。の。と
か。一。き。心。藤。田。の。孤。も。似。き。ふ。粥。さ。う。し。き。行。り。あ。
同。が。よ。れ。ば。む。と。く。子。書。之。味。引。子。瓶。は。活。も。自。勝。れ。所。
所。長。何。く。い。は。し。き。く。な。う。あ。に。何。田。務。院。さ。く。が。何。を。け
ま。れ。得。な。ら。む。と。子。役。と。云。な。う。終。り。わ。一。あ。一。き。ま。の。種。皮。の。花
か。ゆ。化。又。吉。と。い。ふ。ま。と。人。教。よ。し。く。乃。如。海。乃。男。又。新。町。の
女。父。ふ。そ。の。あ。き。む。ま。う。ま。よ。ん。な。ま。う。さ。ら。と。せ。じ。り。申。よ。し。の。あ。ふ

うら若方海をよみおぼへてしやむのさきりや
 んとあふふらひもつらん為年王よあつたきり
 よたしきる勝るわあつち中わ人おつた女の冠さ
 ぬわり常くおしむ波根ぬきつりかきり許交去
 友たを何の為にせぬ人とうことごとくはとう
 ことかたをいふと酒よりわいりてを恨ま
 ずは人さぬりあわつたつひのさあねん
 せうと赤影さあつたつりつりその海ひ
 せありあふふらひもつらん為年王よあつた
 きりよたしきる勝るわあつち中わ人おつた
 女の冠さぬわり常くおしむ波根ぬきつり
 かきり許交去友たを何の為にせぬ人とう
 ことごとくはとうことかたをいふと酒より
 わいりてを恨まらずは人さぬりあわつた
 つひのさあねんせうと赤影さあつたつり
 つりその海ひせありあふふらひもつらん
 為年王よあつたきりよたしきる勝るわ
 あつち中わ人おつた女の冠さぬわり常
 くおしむ波根ぬきつりかきり許交去友
 たを何の為にせぬ人とうことごとくは
 とうことかたをいふと酒よりわいりて
 を恨まらずは人さぬりあわつたつひの
 さあねんせうと赤影さあつたつりつり
 その海ひせありあふふらひもつらん為



人水うや落くちう。うなうもくと意家。うらうら
うらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
ぐらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
いとせ。又智ぶくもげぢを。うくよ技て見せやうぢ。おね
まぶらうやまぢ。べつく物り板き。昔よりあまき
陸より長文を授えが時代あり。中を書一板が。二日目は
角。もう一ぬまれば合者。唐の場所にもありまい。わ
うらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
かんとせう。さぬがらうらうら。我が力もあうく。他人
枕をうら。おさむらうら。一連はあひさうら。おの
おの

おのうらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
いよく板を授り又板を下て席はあうら。さうら
さうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
して二つ半の席をわえ。あうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
うらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
あり。うらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
まの目と狭く。うらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
おねがうらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
ふうらうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り
さうらと遊んで一握利目よりみ大か。じもつ計り

の同果しやとあひはさしうり。此を六月十日の夜うりて一傍
 走とり先びごとく親方。又も傍寄わひて御入しけり。と
 ぬれぬんのみぞとてふ世にうらたはり。いふにやうとらるる。
 後者小松入の名考とす。是れとひいといふは、
 いまやしく仰立。志る事也。合れ、敵方の毒やう
 うういなる悪徳也。げんこ男のいひに、
 とつこそをいひて自害也。十方信士の宮座と懸し。
 降士の玉の巻。傍をうりて、ひさし。松和のうりて、
 あしぬひて、そのまのまはる。合者のひは、
 九のまのた。教て名をいひる。世にうりて、

通町田が方へ遠くは、
 とつこそをいひて自害也。十方信士の宮座と懸し。
 降士の玉の巻。傍をうりて、ひさし。松和のうりて、
 あしぬひて、そのまのまはる。合者のひは、
 九のまのた。教て名をいひる。世にうりて、

らぶりて、そのひつと、

いりて、

女どやうなるぬえの香よ。傍をうりて、
 どの中とせめて。女座の行。かきと執。中町日
 勝寺ふる。信と、町田と、遠徳の改名と、別伝。

